項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
Ⅰ．理念に基づく運営 1．理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	住み慣れた地域で、その人らしく豊な暮らしが出来るよう支援していく。という事業所全体の理念に加え各ユニットごとにも理念を掲げ、一人ひとりが当たり前のことを当たり前にできる生活を送れることを目標としている。		
2	○理念の共有と日々の取組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	理念に関しては毎朝の申し送り時に経営者･管理者･職員で読み上げ、日々理念に基づいたケアを提供できるようにしている。 また、各ユニットの作成した理念もあり、その理念を念頭におき支援している。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	ホームの玄関に掲示し、家族の方にも理解して頂いている。また、運営推進会議において理念に基づいた取り組みについて情報公開している。	○	地域の方にもっと浸透できるように努めていきたい。
2．地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	利用者さんと近所へ散歩に出かけた際の挨拶等を積み重ねていく中で、声をかけてくれる方やお花を頂いたりと、散歩が良い交流の機会となっている。また、ホーム入口にベンチや花を設置するなど立ち寄りやすい雰囲気作りを心がけている。	○	地域の住民や、学生など気軽に立ち寄れる場所へしてゆきたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町内会に加入し、会合･行事･清掃活動等に積極的に参加するよう努めている。また、ホームでの夏祭り開催時には多くの地域の方々に参加いただけており、地域の方と絆を深める良い機会となっている。	○	よさこいソーラン祭りなど、地域の方が声をかけてくれ、場所の用意などして頂き楽しまれている。またそこから、地域の方との交流へと繋がっている。
6	○事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	近隣の高校生や、地域の方の特技を活かしたボランティアの受け入れ（体操･はり絵･絵手紙など）をしている。また中学生の体験実習の受け入れをしている。また、地域の住民の方の抱えている高齢者の方がどのように介護保険を利用できるかという相談にも対応している。	○	今後も地域で高齢福祉について気軽に相談が出来る施設になってゆきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3．理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価をする事で、日々の支援している上で不足している事を明らかにし、改善策を講じる良い機会となっている。	○	今回の自己評価も職員全員でと取り組み、評価の意義や目的を理解して頂き改善に取り組んでゆきたい。
8	○運営推進介護を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議は2ヶ月に1度定期的に行ない、日々の活動やひやりハットの報告をしている。会議での意見はサービス向上につなげられるよう努めているが、参加される家族･委員がほぼ同じメンバーであり、十分にサービス向上に活かされているか疑問が残るところである。	○	参加できなかった家族に対しても、日々の様子をお伝えしている。また、日々の様子がわかるように写真をスライドにして見て頂いている。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	解らない事、相談事は電話したり、役所へ行ったりしている。定期的に行なわれる区･市での管理者会議に毎回出席している。必要におじて電話等している、親切に対応してくださっている。	○	今後も継続してゆきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	一部職員は制度の理解ができているが、学ぶ機会も十分ではなく、理解できている職員は少ない。	○	今後講習会などに参加し、必要な知識を習得していきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。	身体拘束廃止委員会を設立し、虐待の事については全職員十分に理解し業務しているとは思うが今後も、職員間で声を掛け合い介護の仕方について随時考えてゆきたい。	○	職員が気づかないうちに、適切でない言葉使いで入居者様を傷つける事の無い様、職員間で注意をしてゆきたい。
4．理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解･納得を図っている。	契約書、重要事項説明書など十分な時間、場を設け説明している。家族の希望を十分に聴き、納得してもらった上で、サービスが利用できるようにしている。また、できない事への説明として、医療面での限界がある旨もお伝えしている。	○	利用者の状況変化による契約解除に至る場合は、本人、家族、主治医と話し合い、段階、期間を経て対応している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容　・　実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	意見箱を設置し、常に意見を言いやすい環境を整えている。また、入居者から話される意見･不満についてもカンファレンスやミーティングにて話し合いをし、すぐに対応できるようにしている。	○	入居者様のご要望、不満を言いやすい環境を整えてゆきたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	金銭管理については、面会時に提示しており、来られないご家族様に対しては、収支をコピーし郵送し知らせている。また、家族の方が面会に来られた際には近況報告をしている。必要に応じ利用者の方に変化があるときにもその都度連絡を取っている。	○	家族の方への通信を発行したいと考えている（暮らしぶり、活動報告を写真を載せわかりやすいお便りを作成したい。）
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議に於いて、家族の方々に意見を求めている。運営に反映するべき意見に関しては職員間の連絡ノートにて周知している。また、意見箱を設置し、常に意見を言いやすい環境を整えている。	○	苦情があった際は迅速に対応してゆきたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	特別な意見を聴く機会は無いが、その都度必要に応じ意見交換の出来る職場環境となっている。管理者･事業主に対しても気軽に言える環境である。	○	意見等があったさいには、誠意ある対応をとってゆく。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	緊急の受診や、状況の変化による場合には、施設長が業務に入ったりしており、利用者さんの生活スタイル、職員の欠員時などにはその都度調整している。常に生活の質に影響しないように心がけている。 ユニット毎生活リズムにあわせ、出勤時間も違う。	○	職員へ超過勤務をしてもらうこともあるため、ストレスなど負担のかからないように配慮してゆきたい。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	ホーム内での異動はない。離職者がいても入居者様の影響が少なくなるように、馴染むまでに4人体制にしている。	○	馴染みに関係を、今後も継続してゆきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5．人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	個々の職員の成長を考慮し、研修への参加を促している。また、2ヶ月に1度ホーム内の勉強会を実施している。日々の仕事の中に於いてもその都度、助言している。	○	今後も継続してゆきたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	2ヶ月に1度管理者会議に参加し、他ホームとの情報交換を行っている。また、見学等も実施している。	○	もっと、他のグループホームとの職員間での交流を増やしてゆきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	休憩時間をしっかりと設け、ソファーベットでゆっくりと休めるようにしている。また、職員間での交流会を設けたりしている。	○	有給休暇や長期休暇など会社としてリフレッシュの出来る環境を提供してゆきたい。
22	○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	研修会、講演会等の機会を知らせ参加できるように努めている。職場内の勉強会を実施している。日々、職員同士での意見交換を活発に取り組んでいる。	○	個人での向上心を持っていただきたい。
II．安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	ご本人とお会いし、全身状況、身体や認知状況等を確認し、不安や求めていることがあるときは、本人の気持ちを第一に考えたケア及びケアプラン作成につなげられるよう心がけている。	○	尊厳を大切にしてゆきたい。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	家族との話し合いの中で、不安や要望に関しての解決が信頼関係の構築には不可欠なものであると考えているため、受け止める努力を継続していく。	○	ご家族様にも安心していただけるホームへとなるように努めたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	早急な対応が必要な場合は、可能な限り柔軟な対応をし、場合によっては地域包括支援センターや当デイサービス、他事業所のサービス提案等をしている。	○	本人、家族が安心･満足の出来る対応をとってゆきたい。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居前に本人に合わせて頂いたり、見学など、ご本人の性格に合いそうな入居者をスタッフ間で相談し、他者との仲介を意図的に図ったりと、その場の雰囲気に溶け込めるよう配慮している。	○	顔馴染みの関係を築き、安心していただけるようにしている。
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	個々の出来ることを見つけ、お互い声を掛け合い、支えあいながら共に生活している。(料理方法を聞いたり、得意な縫い物のことを聞いたり等)	○	できる事への支援と、共に支えあう暮らしの継続。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	家族の方の想いを把握し、ケアの提供をしている。また、家族にも行事などに参加してもらい、利用者の支援に参加できるところはして頂いている。その中で、楽しみや、喜びを共に楽しんでもらっている。	○	クリスマス会にピアノを弾いてくれたり、創作活動をしてくださったりと。 今後も、このような関係性を大切にしてゆきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	定期的に家族の面会がある入居者が多く、近況報告を行うことでよりよい関係づくりへとつながっていると思われる。	○	なかなか面会に来られないご家族様にも、電話での連絡など徐々に距離を縮めてゆきたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	面会時にゆっくりと過ごして頂けるように、ラウンジや和室などを使用し、お茶を飲みながらゆっくりと過ごしていただけるよにしている。他にも、電話の取次ぎなどの支援もしている。	○	誰もが、気軽に立ち寄れるホームへとなるように努めてゆきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	リビングでの食事の場所、行事や外出などの際にも利用者様同士の関係を考えて座っていただく場所、外出場所を考えている。支えあえる環境・気を使わない（入居者様同士が）環境作りに配慮している。	○	今後も未然に防ぐトラブルの防止策を講じてゆきたい。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	入院した利用者は時々様子を見に面会に行くようにしている。	○	今度も、お役に立てることがあれば、関ってゆきたい。
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	職員の人数や日々の生活支援で、難しい事もありますが、個々の好きなこと（レクリエーション、ドライブ、外食等）を考え、本人が希望する生活スタイルに出来るだけ近づけるよう努力している。困難な方には、家族と話し合い、望んでいるであろう生活を支援している。	○	思いや、意向を把握し本人本位の支援をしてゆきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	最初に家族の方に聞く情報の他に、利用者様の行動などを観察しまた、日常のコミュニケーションの中で生活歴などの把握に努めている。	○	これまでの暮らしというのは、非常に大切なものであって、これらを、生活に上手く組み込んで行くことは、生活の質を向上する事なので、今後もより多くの情報を把握してゆきたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	職員間の情報交換を密とし、現状を把握するようにしている。また、連絡ノートも使用している。	○	一人ひとりの能力を奪い取らず、有する能力を発揮できる場面を提供してゆきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している。	毎日の申し送り、毎月のカンファレンスで現場内での意見交換や課題へのあり方などはもちろん、現場から離れた方（デイサービスの職員、ボランティアの方など）の新鮮な意見を聞き広い視野で1つ1つの課題を解決できるように介護計画を作成している。	○	今後も、利用者本位の考えで介護計画を作成してゆく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	期間に縛られず、入院や身体･精神状況が変化された場合はその都度、計画を作成している。	○	今後も作りっぱなしのプランでなく、現状に応じたプランを作成してゆく。
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やけあの実践･結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに生かしている。	日々の様子は生活記録に毎日記入し気づき、注意点においては連絡ノートを活用することで情報を共有し見直している。	○	今後も継続してゆきたい。
3．多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	月に数回、体操教室、コーラスの会などデイサービスの方へ行き、レクリエーション活動を行っている。他、カラオケをしたり、檜風呂（デイサービスの風呂）も活用している。	○	今後も上手く、多機能を活用してゆきたい。
4．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○　地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察。消防、文化･教育機関等と協力しながら支援している。	近所の高校生が週に2度ボランティアに来てくれる。高校生の社会勉強にもなり、ホームの入居者様の楽しみとなっている。また、防災訓練･緊急時の対応についての指導に関しては消防の方にご指導頂いている。	○	警察にも外へ出てしまう可能性のある方が入居しているので、ＳＯＳネットワークなど関係を深めてゆきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネーシャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	札幌市のオムツサービスの利用や、地域の美容師の方が訪問してくださっている。ほか、マッサージの方が来て頂いている。	○	その方に合った必要なサービスを提供してゆきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議を通し、必要に応じ協働を行えている。	○	今後も継続してゆきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43	○かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	2週間に1回の往診、またはかかりつけ医への通院を行い健康管理に努めている。また、訪問看護師とホームの看護師との連携により支援ができており、相談も気軽に電話で対応して下さる。	○	今後も協力関係をより深めてゆきたい。
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	内科の主治医とは別に、認知症の専門病院に定期通院している。	○	今後も継続してゆきたい。
45	○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	併設の通所介護に看護師が勤務しており、普段から健康状況に関しての相談が密にできている。またその看護師がホーム近隣在住であり、緊急時の相談も出来る状況にある。	○	今後も継続してゆきたい。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	出来るだけお見舞い･面会に職員が伺い、入院中の状態把握と医療機関との情報交換･相談が可能となるよう努めている。医療が必要でなくなった際にはすぐに退院していただき、ホームでの生活に戻ることで利用者に安心して混乱することが少ないようにしている。	○	協力病院の先生も認知症の事を理解しており、環境の変化がもたらすダメージがあるという事。早期退院に向け、通院でフォローできる場合はそのように対応している。今後も、連携をしてゆきたい。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	「重度化した場合の対応に係わる指針」を作成し、意志の確認を行っている。今後、そういう場面に直面した場合も再度家族等に意向を聞き、話し合っていきたい。	○	会社、ケアスタッフ、医師、家族との連携を繰り返し行なってゆきたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること･できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	常に緊急時には主治医に連絡できる体制は出来ているが、職員にもっと研修や講演会など終末期に向けた学びが必要と思う。	○	終末期ケアに向け職員の知識や思いを向上し、入居者様や、家族の方がここのホームで最後をと、望む時には叶えてあげたいと思っている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49	○住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	情報提供を細かに伝えて頂き、これまでの暮らしが継続的に行えるよう対応している。また、家族･関係者と時期、タイミング等にも十分に考慮している。	○	ベットの位置や小物、絵、写真などダメージを最小限にする、取り組みを今後も継続してゆきたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	一人ひとりの性格を把握し、その方に合った対応と声掛けをしている。個々の情報の取り扱いにも十分に留意している。	○	ファイルは基本持ち出し禁止、勉強会で使用した書類はシュレッターで処分している。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	本人の思いを大切に、やりたい事、行きたい所、会いたい人希望を叶えられるように支援している。	○	表出が上手くできない方には、職員が注目し提案などし支援できるようにしている。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	基本的な流れ(体操やレク、入浴など)はあるものの強制でなく、自由参加とし、時間を区切った生活ではなく、個々の生活リズムを大切にしており、ユニット毎に出勤時間が違う。また、買物･外出の希望があったときは可能な限り個別対応している。	○	場合によって併設のデイサービスやもう1つのユニットにも協力して頂き、希望を叶える事が出来るように支援している。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、利用･美容は本人の望む店に行けるように努めている。	月に1度美容師さんが来られている、希望の美容室がある方へは定期的にお連れしている。また、資生堂のお化粧ボランティアの方も来られお洒落をされている。	○	毎日の身だしなみにも、本人の希望の服を着ていただき、髪をとかし清潔感溢れる日々を過ごして頂きたい。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしているか。	準備･片付けは一人ひとりに合った手伝いを自然な流れでして頂いている。お誕生日には希望のメニューを聞きお出ししている。	○	今後も食事を皆さんで楽しく食べてゆきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	医師の制限が無い限り、本人の希望に沿えるようにしており、また、ティータイムには、飲みたいものを選んでもらえるよう、メニュー表を作成している。	○	本人の嗜好を大切に日常的に楽しめるように、支援してゆきたい。
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄パターンを把握し、利用者様のレベルに合わせ、トイレでの排泄を第一と考え、声かけ案内を行っている。	○	今後も継続してゆきたい。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴日は固定せず、しかし、間隔が空きすぎないようチェック表を活用しながら入浴してもらっている。また、入りたいと希望があった時は可能な限り入浴してもらっている。	○	今後も継続してゆきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	消灯時間は設けず、一人ひとりの生活習慣に応じ休んでいただいている。(昼夜逆転傾向の利用者へはその都度対応している)	○	薬に頼らず、日に当たるなど24時間のサイクルを体で感じてもらうにしている。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	スポーツ観戦で札幌ドームへ野球観戦へ出かけたり、温泉や買い物など、その方が楽しめる場所へお連れしている。	○	楽しく、張り合いのある生活が送れる様にこれからも、支援してゆきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	日用品や嗜好品を買ったりするお小遣いを預かっている他、自ら所持している利用者もいる。(紛失の恐れがあることもご家族の理解の上)	○	ご自分でお金を管理しているという気持ちを大切にして頂き、これからも私達にできる事への支援をしてゆきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	天気の良い日は、散歩に出かけたり、向かいの栗林へ森林浴へ出かけたりするようにしている。	○	外へ出る事で、季節と太陽の光をを肌で感じていただきたい、今後も継続してゆきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段はいけないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	計画し外出したり、その日の天候に合わせて外出したり、外へ出る機会を多く作れるように努めている。	○	今後も継続してゆきたい。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	年賀状やお手紙のやり取り、電話の取次ぎ、かけたいときは自由に使用してもらっている。また、携帯電話を持っている利用者もいる。	○	今後も継続してゆきたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	来訪時間は特に設けず、自由に訪問して頂いている。自室の他、リビングや和室、ラウンジなどもご利用して頂いている。	○	お茶を飲みながら、ゆったりとした時間を過ごして頂いている。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	日頃のケアの中で身体拘束、言葉の拘束などは行っていないが、より良い生活を送って頂くため、正しい理解への知識習得を重ねる必要がある。また、身体拘束廃止委員会も設立し薬についての拘束も検討している。	○	勉強会･講習会への参加を積極的に行っていきたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中は施錠せずに出入りは自由に出来る。夜間は外部からの侵入者や、どうしても一人では対応しきれない場面を想定できる為施錠している。居室は本人の希望で施錠されている以外は開錠されている。	○	基本的には鍵を掛けないケアとして、取り組んでいる。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67	○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	リビング以外で過ごされている時も、どこで何をしているのか適時ホーム内全体に把握するよう努めている。夜間は22時、0時、2時、5時に巡回している他、状況に合わせて見回りしている。	○	今後もプライバシーの確保に努めてゆきたい。
68	○注意の必要な物品の保管･管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	一人ひとりのレベルに合わせ預かっている。使用時は見守りを行っている。	○	自己管理が出来、こちらで安全と判断した場合には、お渡しし生活を充実できるようにしている。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	事故報告書、ひやりはっとは、全スタッフが目を通すようにし（他ユニット、併設デイサービス分も）、再発防止に努めている。火災に関しても、消防士の方から年に1回防災についての話を伺っている（今年度はコンセントよりの出火という題材）	○	継続してゆきたい。
70	○急変や自己発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	救命救急研修を受講している。緊急時対応マニュアルもすぐに見える場所に掲示しており、常に確認できるようになっている。	○	今後も継続的に救命救急講習を受講してゆきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年に2回防災･避難訓練を実施している。防火管理者も配置し緊急時の連絡や併設のデイサービスの職員の協力体制は整えてある。また、消防への自動通報システムやセコムへの自動通報システムもある。	○	今後も入居者様の安全の確保を徹底してゆきたい。
72	○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている。	来訪時、または電話にて起こりうるリスクがある場合はご家族に報告している。抑圧感がなく穏やかな生活を送って頂けるように今後も職員間で対応策を講じてゆきたい。	○	今後もリスクを最小限に生活して頂けるように取り組みたい。
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	定期的なバイタル測定を行っている。また、体調や言動に異常があった際には看護師、主治医に連絡し、必要に応じて受診を行っている。また、週1回の訪問看護または、隔週往診を受け健康管理に努めている。	○	入居者様は高齢であり、認知症であるため異常に気づきずらいため、日常との違いを早期に気づき対策をとってゆきたい。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	内服薬説明書を個人ファイルにファイリングし、すぐに確認できるようになっている。用法、用量については、全職員がほぼ把握できているものの、副作用までは把握はされていない。	○	服薬支援において、飲み残しや薬を落としてしまわないように気をつけてゆきたい。内服時には、名前、日にち、あさ･ひるなどの確認の徹底を今後も継続してゆきたい。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	排便間隔を確認し、適度な運動･水分の促し、必要に応じ主治医と相談し下剤調整を行っている。出来る限り薬には頼りたくない為、昆布水やおろしリンゴ、冷たい水などを試みている。	○	
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	個々の状態に合わせた支援を行っている（ポリデント洗浄、口腔ケア促しなど）。歯科医からの助言もあり、良い関係も築けている。	○	今後も口腔ケアに留意してゆきたい。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	チェック表は必要に応じ使用している。 チェック表の必要ない方も下膳に摂取量を確認し日々の変化がないか観察を行っている。また、水分も十分な量は確保出来る様にしている。	○	今後も継続してゆきたい。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、ＭＲＳＡ、ノロウィルス等）	インフルエンザの予防接種は入居者様、職員は全員実施している。また、湿度や外出時からの手洗い、うがいの徹底はなされている。感染症予防マニュアルを設置している。	○	今後も継続してゆきたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	まな板、ふきんの消毒、洗浄の徹底を行っている。食材も傷みやすいものは早めに使うなどしている。	○	今後も継続してゆきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	集合玄関は、花･木を置き家庭的な雰囲気を作っており、ユニットの玄関は季節の飾り物等を飾っている。玄関には木を基調としたデッキがあり、やわらかな雰囲気となっている。	○	心がやすまる空間となるようにしてゆきたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用にとって不快な音や光がないように配慮し、生活観や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節毎の飾り物を利用者と一緒に作成し飾り、季節感を感じられるようにしている。 共用部分には不快な音や、採光などには注意を払っている。	○	季節感、生活感を大切に心地よい空間の提供をしてゆきたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ラウンジ、和室があり、ゆっくりと過ごせるようになっている。 デイサービスが休日のときはそちらも利用可能である。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室内に入るものであれば持参可能であり、馴染みの家具や写真を持ってこられ生活されている。	○	今後も、入居者様が安心して過ごせる空間の提供してゆきたい。
84	○換気･空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	温湿度計を設置しており、乾燥時期は加湿器を設置している。また、各居室には24時間の換気システムがあり部屋の空気がこもらない様になっている。排泄物に関してもこまめに処理を行っている。	○	ホームは丘の上に建っており、心地よい風が流れ込んでいる、そんな自然の空気を感じながら生活を送って欲しい。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	廊下･玄関、和室上がり口など、必要と思われるところに手すりを設置している、車椅子トイレも広く、使用しやすくなっている。床材はクッションフロアーを使用し、転倒時のリスクを軽減できるようにしている。	○	今後も継続してゆきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	トイレの場所に貼り紙をしたり、自室がわからなくなる方には入り口に表札や目印になる暖簾を使用している。 夜間はトイレと判るようにスポットを当てている。	○	状況に合わせ、工夫と混乱の原因をアセスメントし対応してゆきたい。
87	○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	畑を作り、農作物の収穫を行ったり、ベランダに椅子を出し日光浴を行ったりしている。ホームの周囲には色鮮やかな花を植え、散歩が楽しいものとなっている。	○	今後も癒し場となるように努めたい。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	①ほぼ全ての家族 ②家族の2／3くらい ③家族の1／3くらい ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

Ⅴ．サービスの成果に関する項目		
	項目	取り組みの成果
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き生きと働けている	①ほぼ全ての職員が ②職員の2／3くらいが ③職員の1／3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2／3くらいが ③利用者の1／3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2／3くらいが ③家族等の1／3くらいが ④ほとんどいない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

（日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載）